

修士課程修了時の能力評価(CNS)

学籍番号( )氏名( )

それぞれの評価指標について該当する到達度の欄に○をつけてください。

DP	修士課程修了時の能力評価指標(CNS)	到達度(自己評価)			
		4 100～80%	3 79～60%	2 59～40%	1 40%未満
<b>1. 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた看護専門職として課題を探究する能力を有している。</b>					
①	看護実践における倫理的問題に対し、倫理や法に関する知識を活かし、解決策を述べることができる。				
②	対象が主体的に意思決定できるよう支援するプロセスや方法を述べることができる。				
③	対象の権利を擁護する立場から、倫理的な看護実践の普及について述べることができる。				
<b>2. 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉える能力を有している。</b>					
①	グローバルな視点で個人・家族・コミュニティの持つ健康課題をとらえ、述べることができる。				
②	他学問領域の研究にも視野を広げ、健康課題を学際的に分析統合し把握することができる。				
<b>3. 看護学の発展に貢献する研究に取り組む能力を有している。</b>					
①	実践の中でとらえた現象や経験を意味づけ、既存研究を踏まえてリサーチクエストへと発展させることができる。				
②	専門領域の文献のクリティークを通して、研究の方向性を定めることができる。				
③	リサーチクエストや研究目的に基づいて研究手法を選択することができる。				
④	各々の研究課題に対して実施可能な研究計画書を作成することができる。				
⑤	研究倫理の考え方に基づいて研究者の責任を遵守し、研究を遂行することができる。				
⑥	研究結果を論文としてまとめることができる。				
<b>4. 看護専門職として研究の成果を社会に還元する能力を有している。</b>					
①	研究成果を実践・教育・管理に活かすための方策を導き出すことができる。				
②	研究成果を社会に公表するための計画を立案し、着手することができる。				
<b>5. 保健医療福祉に関連した社会的ニーズに的確に対応するために、多職種と協働し、看護専門職としての役割を発揮する能力を有している。</b>					
①	健康課題を解決するために多職種との連携・協働について考えることができる。				
②	健康課題に対し適切なチームアプローチ方法を選択することができる。				

DP	修士課程修了時の能力評価指標(CNS)	到達度(自己評価)			
		4 100～80%	3 79～60%	2 59～40%	1 40%未満
<b>6. 専門看護分野において卓越した看護実践能力を有している。</b>					
①	専門看護分野における対象を包括的にアセスメントし、高度な看護実践を提供できる。				
②	専門看護分野において実践した看護を省察し、その内容を述べるができる。				
③	解決困難な問題に直面している看護職を含むケア提供者とともに、その問題や課題を評価・整理し、解決に向けたコンサルテーションができる。				
④	専門看護分野の立場から、保健医療福祉に関連した多職種との連携調整を行うことができる。				
⑤	看護職を含むケア提供者のレディネスを査定し、自立して教育計画を立案・実施できる。				
⑥	専門看護分野における倫理的問題について、医療倫理や法に関する知識を用いて分析し、倫理調整を図ることができる。				
<b>7. 専門看護分野において、ケアの質を評価し、ケアの質改善に向けた取り組みができる能力を有している</b>					
①	専門看護分野のケアの質を評価し、問題点の抽出と改善に向けたアクションを起こすことができる。				
②	専門看護分野で用いられるガイドラインやプロトコールを活用し、ケアの質を保証できる。				

## 修士課程修了時の能力評価に対するご意見

能力評価指標による自己評価は、初めての試みです。自己評価をするにあたり、表現や内容の解釈等の点で、分かりづらい、判断に迷うなどのご意見をいただきたいと思います。ご意見がありましたら、「評価指標番号」と「ご意見」を以下に記述してください。ご協力をよろしくお願いいたします。

学籍番号(

)氏名(

)

--